

2017年2月17日

保護者のみなさまへ

園田学園中学校・高等学校
校長 石井 稔

2016年度学校教育診断保護者アンケート結果について

春の陽気が待ち遠しい今日この頃、保護者のみなさまにはお元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。先般実施いたしました「学校診断保護者アンケート」にご協力いただきましてありがとうございます。その結果がまとまりましたのでご報告申し上げます。

この結果をふまえて、保護者のみなさまにさらに満足していただける教育活動を教職員一丸となって展開してまいりますので、今後ともよろしくご報告申し上げます。

1. 調査概要

- 調査目的：本校教育に関する保護者の方々の評価をふまえ、より良い教育を創造する。
- 実施日：2016年12月
- 対象：全校生の保護者
- 回収率：86.6% (696名/804名)

2. 調査結果について

「A=よく当てはまる」「B=やや当てはまる」「C=あまりあてはまらない」「D=全く当てはまらない」の回答について、「A+B=肯定的回答」「C+D=否定的回答」と表現し、概ね80%以上を「多い」、概ね60%以下を「少ない」と表現しています。

(1) 肯定的な回答が多かった項目 (37項目中9項目)

- ・学校は、子どもの安全や健康・衛生管理に努力している。…………… (80.0%) (昨年 80.3%)
- ・子どもを本校に入学させてよかったと思う。…………… (84.3%) (昨年 82.0%)
- ・子どもは、学校に行くのが楽しいと言っている。…………… (81.6%) (昨年 79.2%)
- ・学校行事の内容は充実していて、子どもは積極的に参加している。…………… (82.6%) (昨年 79.1%)
- ・学校での対応や、電話で話すときの教職員の対応は適切である。…………… (87.5%) (昨年 86.2%)
- ・学校は地震や台風などの非常時の対応を子ども・家庭に適切に伝えている。… (90.4%) (昨年 85.5%)
- ・家庭では、子どもと学校のことでよく話をする。…………… (81.2%) (昨年 78.9%)
- ・家庭で携帯電話の取り扱いや必要性などについてきちんと話し合っている。(83.8%) (昨年 80.0%)
- ・子どもは、情報モラルについて理解し、携帯電話などを正しく利用している。(84.2%) (昨年 81.7%)

(2) 肯定的な回答が少なかった項目 (37項目中4項目)

- ・学習内容や授業の進み具合が、子どもの話や通信などからよく知ることができる。…………… (59.6%) (昨年 54.6%)
- ・学校のHPをよく活用している。…………… (39.8%) (昨年 33.2%)
- ・学校のHPが見やすくなった。…………… (45.3%) (昨年 38.0%)
- ・育友会活動に参加しやすい。…………… (39.8%) (昨年 39.3%)

3. まとめと今後に向けて

肯定的回答が多かった項目は37項目中9項目(昨年度7項目)、肯定的な回答が少なかった項目が4項目(昨年度8項目)となりました。一方、上記(1)(2)には現れませんが、肯定的な回答が60%を超えているけれども、わたしたち教職員が注目しなければならない課題として次の3点を認識しております。

(1) 学習面の課題克服に向けて

「子どもは、学校の授業が楽しくわかりやすいと言っている」の肯定的回答が 61.8%（昨年比+3.8%）、「子どもは、家庭でも学習にがんばって取り組んでいる」の肯定的回答が 63.1%（昨年比+4.7%）、また、同時に実施した生徒アンケートでは、「宿題・予習・復習にしっかり取り組んでいる」の肯定的回答が 51.9%（昨年度比+2.2%）「授業はわかりやすい」の肯定的回答は 60.0%（昨年比-2.4%）となっています。これらの項目は、一定の肯定的評価は得られていますが、まだまだ満足度を高めていかなければならない重要項目です。

現代の社会においては、教科内容の「知識・理解」はもちろんですが、答えが一つに定まらない問題に自ら解を見いだしていく「思考力・判断力・表現力」を生徒が身に付けることが必要になってきています。そのためには、生徒が他者と協働して主体的に学ぶことを通して学習に対する意欲を持ち、能動的に学習に取り組むことが必要です。

また、これまでは一斉授業の形式の授業形態が主となっていましたが、個々の生徒の理解にあわせた課題を提供することや学習に取り組む環境を整えることも求められています。つまり、アクティブラーニング（能動的学習）とアダプティブラーニング（個々への適応学習）の視点を持ち、生徒の学びの意欲を引き出す授業を展開することが課題となっています。

このことを今年度の課題と位置づけ、1 学期末に全教員の授業アンケートを実施し、その結果を分析しテーマを設定して、2 学期 3 学期には研究授業に取り組みました。引き続き、生徒が意欲を持って学習に取り組むことができる授業創りをすすめてまいります。

(2) 生活指導面の課題克服に向けて

「学校の生活指導の方針に共感できる」は、肯定的回答が 78.9%ありました。一方「学校はいじめや問題行動に対して適切に対応している」については肯定的回答が 64.4%、「学校は人命や人権を尊重する意識を育てようと努力している」については肯定的回答が 72.4%でした。決して「高い」数値とは考えていません。また、生徒アンケートの「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定的な回答が 54.3%と「低い」数値を示しています。

学校生活は生徒同士の関わりの中で成り立っています。本校では、授業、学校行事など教育活動のあらゆる場面において、生徒が個人で取り組むのではなく、集団として取り組むことができるよう努めています。学級活動、部活動などにおいて、生徒一人ひとりの力が集団の力を高め、また逆に、集団の力が個人の力を伸ばしていく、そのような人間関係で構成された集団づくりのために教職員が生徒に向き合い、更に深めていかなければなりません。

(3) 「女性学～女性の学び」の取り組み

『女性学～女性の学び』の授業は意義がある』については、肯定的な回答が 78.4%ありましたが、生徒アンケートでは、『女性学～女性の学び』の授業は今後の人生に役に立つと思う』の肯定的な回答は 67.5%となりました。「女性学～女性の学び」は、あいさつや礼儀などのマナーを学ぶとともに、女性としての生き方を考え、それぞれの将来の生き方を見つけるという本校独自の取り組みです。授業とホームルーム活動をもっと連携させ、わたしたち教職員が、学校生活の様々な場面で、生徒一人ひとりに向き合っ、生徒の将来の進路に関わっていくことが必要であると認識しております。

本校の建学の精神は「捨我精進（しゃがしょうじん）」、現代風に解釈すると「他者への思いやりの実践」です。また、校訓は「明るく 清く 正しく 強く」です。どのような場面にあっても、校訓のように前向きに取り組む、他者のことを考えられる女性に成長してほしいと願っています。

最後に

自由記述の意見欄には、学校に対する感謝や信頼のご意見も多くいただき、教職員の大きな励みとなりました。一方、厳しいご意見、緊急に解決すべき課題も寄せられました。こうしたご意見を真摯に受け止め、今後の教育活動に活かし、保護者のみなさまのご期待にお応えできるよう全教職員で不断の努力をしてまいります。今後ともご理解、ご協力をお願い申し上げます。

以 上